

2M-6

98
9
1509

太政官第廿四號御達

陸軍治罪法

全壹册

明治十六年九月翻刻

岡島寶玉堂發兌

036338-000-7

CZ-691-025

陸軍治罪法

岡島寶玉堂

M16

BBQ-0040



C2
691
025



○太政官第二十四號布告

陸軍治罪法別冊ノ通制定シ明治十六年八月十五日ヨリ之

シテ施行ス

右奉勅旨布告候事

明治十六年八月四日

太政大臣 三條實美
陸軍卿 大山巖

陸軍治罪法目錄

第一章 總則

第二章 軍法會議ノ構成

第三章 軍法會議ノ權限

第四章 陸軍檢察

第五章 審問

第六章 判決

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セス但官物ノ損害ニ係ルノ賠償ハ此限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限リ之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ掲クル者ヲ謂フ

○第一章 總則

二 第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍管司令官營所司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百條第百一條規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地

ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事審事補錄事ヲ置ク

第九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

判士長	判士	被告人
佐官一名	尉官三名 理事一名	陸海軍少尉准士官及ヒ同等軍人ノ 軍屬

三

○第二章 軍法會議ノ構成

六

官等ニ拘ハラヌ之ヲ審判セシム

但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得

第十二條 軍管軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ可キ將

校缺員スル時ハ軍管司令官ノ上申ニ依リ陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム

第三章 軍法會議ノ權限

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲ス

第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ

其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルヲ得

第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ重罪輕

罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十七條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十八條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中

○第三章 軍法會議ノ權限

八 發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中
罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ
付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若
クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召
集中ノ犯罪解散ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ
異ニスル時ハ先キニ審問ニ着手シタル軍法會議ニ於テ
之ヲ審判ス海軍軍人軍屬ト共犯ニ係ル時モ亦同シ

第二十條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シ

タル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十一條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト
雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ
亦同シ

第二十二條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル違警罪
モ亦之ヲ審判ス

第二十三條 軍中若シクハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スル
ニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍
法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

九

第四章 陸軍檢察

○第四章 陸軍檢察

○一 第二十四條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據
ヲ拾收ス

第二十五條 左ニ記列スル諸官ハ司令官ノ命令ヲ受ケテ
陸軍檢察ノ職務ヲ行フ

要塞副官若クハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

砲兵工兵ノ監護

第二十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長
及ヒ各所管ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アル

コトヲ知リタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ
陸軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得

審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知リタル時ハ
自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害セラレ
タル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官
被告人所屬ノ長官隊長若クハ司法警察官ニ告訴スルコ
トヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタ
ル時ハ第二十七條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ

○第四章 陸軍檢察

二一 得

第二十九條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯ス者アルコトヲ知リタル時ハ其職務ヲ行フノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ告發ス可シ

第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルヲ得
其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察官司法警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付ス可シ

第三十一條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ陸軍檢察官ニ引致ス可シ

第三十二條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第三十三條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ル可シ

三 〇第四章 陸軍檢察

四一 其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十五條 陸軍檢察官要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官檢察ノ處分ニ處シタル時ハ調書ヲ作り證憑文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五章 審問

第三十六條 司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ其判決ニ付ス可シ
被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ

營所ニ於テ被告人士官以上ナル時ハ營所司令官之ヲ軍管司令官ニ具申ス可シ

第三十七條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十八條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人ノ官等ニ拘ハラス直ニ其審問ノ命令ヲ下スコトヲ得

第三十九條 審事審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

五一 第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出

○第五章 審問

六一

廷セサル時ハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十一條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪

證ヲ漂滅シ若クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ

犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ拘引狀ヲ發

ス可シ

第四十二條 審事ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ク可キ被告

人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其他ノ陸軍檢察官若クハ審事若

クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十三條 審事ハ召喚狀若クハ拘引狀ヲ受ケタル被告

人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコ

七一

トテ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ

得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司

法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十四條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサ

ル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢

事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十五條 審事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト

認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル

八一

可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解シ可シ

第四十六條 審事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押収ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ審事若シテハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十七條 審事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係スル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠

隔ノ地ニ在ルトキハ第四十六條第二項ノ例ニ依ル

第四十八條 審事ハ証人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

証人皇族若シハ勅任官ナル時ハ審事其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ

証人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

証人若シ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若シハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

九一

第四十九條 審事ハ被告人及ヒ証人ノ訊問ヲ爲ス時ハ錄

○第五章 審問

○二

事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及セ供述ヲ錄取シ被告人
若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ
否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサ
ル時ハ其旨ヲ記スヘシ
被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減セシムヲ請求スル
コトヲ得

第五十條

審事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシ

ムル爲メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定
スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ
鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル

陸治に

時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記
シ署名捺印ス可シ

第五十一條

審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セ

スシテ其呼出ニ應セサル時ハ二圓以上十圓以下ノ罰金
ヲ科ス可シ

但審事ハ其證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百八十條ニ依リ又
鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第百七十九條ニ依
リ罰金ヲ科ス可シ

一廿

第五十二條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑

○第五章 審問

法第廿七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時亦審事之ヲ命ス

第五十三條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺舉シタル時ハ理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添ヘ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交付シ理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申スヘシ

第六章 判決

第五十五條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

第五十六條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事各其席ニ著キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム

判士長ハ先ツ被告人ノ官位勳等隊號職名氏名族籍年齢ヲ問ヒ訊問ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム

其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ爲サシム

○第六章 判決

四廿 第五十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發

スルヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得
法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若
クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ
法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ
例ニ依ル

第五十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ
應セサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若クハ正當ノ事故
ニ因リ出廷スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ判士長

其審判ヲ延期スルコトヲ得

第五十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ審
判ノ日時ニ出廷セズ若クハ逃走シテ召喚狀ヲ送達スル
コトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審
判ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十一條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時ハ被告人中闕席シ
タル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ

第六十二條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問
シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ

○第六章 判決

證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル
可キ者ト認メタル時ハ判士長ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問
ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシメ之ヲ司令官
ニ具申ス可シ
其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スル
コトヲ得

第六十三條 法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ判士長ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ

法廷ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官

ニ具申ス可シ

若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ
但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十四條 被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム可シ

第六十五條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士錄事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訴訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

○第六章 判決

- 一 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス
- 二 無罪ノ判決書ニハ被告ノ事件罪ト成ラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス
- 三 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス
- 四 被告人ノ官位勳等隊號職名氏名族籍年齢住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

陸海軍

第六十六條 司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上

申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス

但營所司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍管司令官ニ上申ス

可シ

死刑

上長官以上ノ重罪輕罪

士官ノ重罪

第六十七條 司令官其判決ヲ不適當ト思量スル時其專決

ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可

○第六章 判決

第六十八條 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決ヲ不適當ト量思スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

陸軍卿ハ死刑並ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル者ハ上奏シテ命ヲ請フヘシ

第六十九條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士録事法廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第七十條 闕席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會議ノ門前

ニ揭示ス可シ

第七十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ第六十六條ノ權限ニ拘ハラズ直ニ其宣告執行ノ命令ヲ下ス可シ

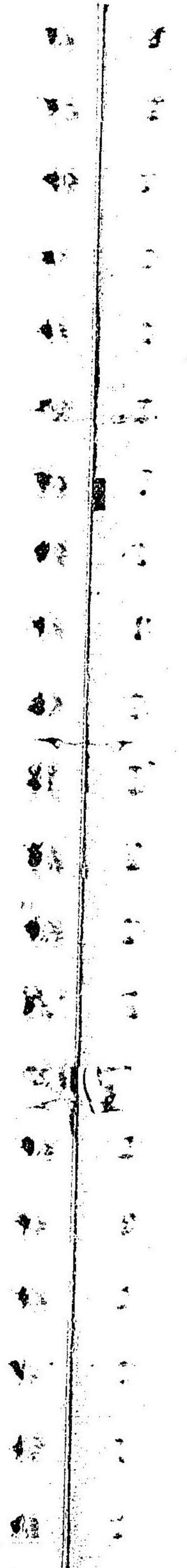
第七十二條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルヲ得

但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルヲ得

三 第七十三條 行刑ニ關スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ定ム
二 第七十四條 臨戰若シハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官
ハ時宜ニ依リ此治罪法ノ條目ヲ省略執行セシムルヲ得

陸軍治罪法畢



明治十六年八月廿二日鵜刻御届

同 年九月 刻 成

定價金六錢

鵜 刻 人

大坂府平民

岡 島 真 七

東區本町四丁目五十九番地

印

刷

同

岡 支 店

島 活 版 所

東區本町四丁目六十番地

發 兌 人

諸新聞雜誌
賣 捌 所

岡

島

支

店

東區備後町四丁目三番地

福岡廣業註解
 明治十五年第 請願規則註解 全壹冊 定價八錢
 五拾八号公布
 横田忠郎編輯

一 土地地券例規全書 全壹冊 定價金壹圓

一 同續編十四年分 全一冊 定價金五十錢

一 同三編十五年分 全壹冊 定價金六十五錢
 逐年々出版

横田忠三郎編輯
 一 現行地方財政法規 全壹冊 定價金八十錢

大出憲之編輯
 一 現行法律規則大成 洋本綴全壹冊 定價金壹圓

中山克己纂譯
 一 萬國政典 全壹冊 定價金壹圓

小林義秀譯
 一 政體論 全一冊 定價金廿五錢

章間時福序 喜多川林之丞編輯
 一 國家主權論纂 上下全二冊壹冊 定價金六十錢

判事補淺井佐一郎編輯
 一 改正增補民事覽要 甲篇全一冊 定價二圓五十錢

本篇ハ維新革命ヨリ明治十二年ニ至リ發令セ
 ル民事詞訟ニ樞要ナル官令ヲ撮録合輯セシモ
 ノナリ其類ヲ分ツテ四十一章ト爲シ逐條要旨
 ナ採摘シ卷首ニ掲ケテ數ナ附スルヲ以テ尤緒
 閱ニ便ナリ而テ既ニ改正成ル條件ハ原文ヲ略
 シ要領及ヒ發令年月日號ヲ記シ以テ沿革ヲ
 知ラシム然レモ證券印稅受人證人辨償規則ノ
 如キ當時ノ定約存スルモノ之レヲ載録セリ或
 ハ卷中照合ス可キモノハ其條件ヲ記スルニヨ
 リ一目シテ且亦沿革ヲ知ル可シ苟モ訴訟ニ關
 スルノ法令載セテ漏サス實ニ民事緊要ノ書ト
 爲ス諸君幸ニ購求アラソクナク

一 同二版 十三年分 全壹冊 定價五十錢

一 同三版 十四年分 全壹冊 定價三十五錢

一 同四版 十五年分 定價金五十錢

一 同乙篇 增補同指 近刻

佐藤茂一編著
 一 日本憲法論纂 西洋仕立全一冊 定價金六十五錢

何ノモ各地書林へ差出候間其御最寄ニテ購求之程奉願上候